

アプリケーションの統合スイートでクラウドの旅へ

世界のトラベル プランニングに新風を吹き込んだトリップアドバイザーは、迅速な行動が肝心だと考えています。

「私たちはサイト訪問者に向けて、できる限り新鮮で役に立つ情報を届けたいと思っています」とトリップアドバイザーの CEO である Stephen Kaufer 氏は語ります。トリップアドバイザーの信条は「スピードが勝負」。Workday を選択したのも自然な成り行きでした。

「熟成バター」のようなレガシー システム

トリップアドバイザーは 2000 年に創業し、現在では世界最大級の旅行サイトとなっています。

「トリップアドバイザーは旅行に役立つ情報を提供する Web サイトですが、プランニングのお手伝いをするのはトリップアドバイザーという会社ではありません」と Kaufer 氏。「旅行者同士でアドバイスや旅行のヒント、一風変わった旅の方法などを共有するコミュニティとして機能するサイトです。サイトには月に 5,000 万～6,000 万ものアクセスがあり、寄せられたレビューや意見は、7,500 万に達します。数えきれないほど多くの人々が自分の時間を割き、いい旅ができるよう他の旅行者を助けているのです」

2011 年 12 月、トリップアドバイザーは大手旅行サイトのエクスペディアからスピンアウトしました。エクスペディアでは従来のオンプレミス型 ERP システムを使用していました。トリップアドバイザーの CFO、Julie Bradley 氏は、古いシステムには不便な面があったと述べています。「バターをじっくりと熟成するかのような手間と時間がかかりました」と Bradley 氏は振り返ります。「システムに情報を投入し、しばらく待ってから、抽出する。レポート作成に時間がかかる。分析にも時間がかかる。ビジネスを進めるうえで、じっくり待つということは、熟成どころか成長の妨げとなってしまいます」

株式公開を準備するにあたり、従来の ERP システムがトリップアドバイザーの「スピードが勝負」という信条にマッチしないことは明らかでした。また同社は、社員に最良のツールを提供したかったのです。

「そもそも、私たちは高度なテクノロジーを誇る企業です。」と Bradley 氏は語ります。「弊社のエンジニアは非常に優秀です。彼らはツールが役に立たないとなれば、自ら構築してしまいます。ですから、彼らの能力を最大限に発揮してもらうためには、機能に柔軟性があり、快適なユーザー エクスペリエンスを実現できる最新鋭のツールを提供することが必須なのです」

イノベーションのためのパーフェクト マッチ

Kaufer 氏にとって、トリップアドバイザーの大胆で革新的なアプローチにマッチするビジネス パートナーを見つけることは、重要な課題でした。「トリップアドバイザーを立ち上げた際、どのようにして 事業を始めたか振り返って見たのです。そして私たちが、常識を打ち破る数々の新しい挑戦を成し遂げてきたことに気付きました」と Kaufer 氏は語ります。「トリップアドバイザーの場合、常識とはガイドブックであり、私たちが目指したのはユーザー自身が作る コンテンツです。ERP システムのオプション一覧を眺めていて、ふと思ったのです。これ



Overview

- 社員数: 2,356 名 (2014年)
- 上場証券市場およびティッカーシンボル: NASDAQ, TRIP
- 収益: 9 億 4,470 万ドル (2013 年)
- 本社所在地: 米国マサチューセッツ州ニュートン

Workday Applications

- Workday ヒューマン キャピタル マネジメント
- Workday ファイナンシャル マネジメント
- Workday 給与計算
- Workday 経費管理
- Workday 調達管理

でも用は足りる。しかし、それでイノベーションといえるだろうか。Webベースのインターフェイスが欲しい。簡単に使えるシステムが欲しい。カスタマイズできるトップページが欲しい」かくして、Workdayがパートナーに選ばれたのです。グローバル対応が可能なWorkdayは、すぐにトリップアドバイザーの目にとまりました。「トリップアドバイザーはまさに国際的な企業です」とKaufer氏は続けます。「弊社は20言語以上のサイトを開設し、世界中で事業を展開しています。多種多様な子会社や支払い方法に対応でき、大規模な企業の運営に伴う業務をすべてこなせるエンタープライズレベルのシステムを必要としていました。Workdayはそのようなシステムを提供してくれたのです」

統合スイートによる完璧なアプリケーションの統合

トリップアドバイザーは、Workdayを導入した直後から、アプリケーションの統合スイートの力を得て、ビジネスを加速させました。ヒューマンキャピタルマネジメント(HCM)の導入には5か月、ファイナンシャルマネジメントには7か月を要しましたが、スケジュールも予算も見積もりどおりでした。CFOのBradley氏は言います。「現在では、給与計算を人事部内で処理する必要がなくなりました。さらに、すべてのデータは、財務会計システムにシームレスに書き加えられます。そのため異なるシステム同士の面倒なインテグレーションは不要で、一貫性のあるレポートを取得できます」またWorkdayは、共通したユーザーインターフェイスを持つため、マネージャは休暇の把握から経費レポートの承認、ベンダーへの支払いまで、マルチタスクを実行できます。

「複数のシステムにログインする必要がありません。これは、ユーザーからするとホームラン級の利点です」とBradley氏。「私たちはWorkdayの運用を4月1日に開始したのですが、Workdayのシステムで財務と人事を統合し、公開会社として第2四半期を終えました」とBradley氏は続けます。「誰しもの期待を上回る成果でした。数字をいち早く捉えられますし、より深い分析もできます。しかも、待つ時間は短縮され、考えること

に使える時間が増えました。私のチームはデータを的確に理解することが出来たのです。そして、その分析した情報を、株式市場や自分たちのビジネスに伝えることができました」「Workdayのおかげで、単なる数字の報告が数字の分析へと発展し、結果をビジネスに活かせるようになりました」とBradley氏は締めくくりました。

上場企業としての要件

トリップアドバイザーの会計監査役であるNoel Watson氏は、Workdayが果たしている役割について高く評価しています。Workdayは、サーベンスオクスリー法への準拠をはじめ、監査に関する厳格な諸要件を満たし、上場企業としてのトリップアドバイザーを支えているからです。「処理に丸1日、場合によってはそれ以上かかり、答えを求めて何度も見直さなければならなかったデータを、Workdayは必要なときにいつでも提示してくれるのです」とWatson氏は言います。

Watson氏は、「スピードが勝負」という信条のもとにエクスペディアからスピンアウトしたトリップアドバイザーの事業を、即座に活性化させることができたWorkdayの能力にも感銘を受けました。トリップアドバイザーは、財務部門、税務部門、さらにはSECへの報告機能まで、かつては親会社が提供してくれた各種体制を、すべてゼロから準備しなければなりませんでした。「Workdayを導入して運用を始めたと同時に、これらの体制を整えることができたのは本当に驚きでした。単一のシステムで上場会社としてのこうした要件を、容易に迅速に満たすことができたのです」とWatson氏は続けます。

同様に、Watson氏はWorkdayなら決算もスムーズに行えることに気付きました。「上場企業として、速やかに決算を行い、会計期間の報告をできる限り早くまとめることはとても重要です」とWatson氏は言います。「そうすれば結果を手にしたマネジメントは、ビジネスの状況を分析して投資家やアナリスト、会社外の人々と業績について議論する準備を進められます」では、決算処理はどれくらい速くなったのでしょうか?「Workday導入前は、決算に1週間以上は必要でした。現在は、数日で完

了できるよう取り組みを進めています。それを実現可能にするツールを手に入れましたからね。」

グローバルワークフォースを活かすモバイル機能

トリップアドバイザーの人事部シニア ディレクタ、Eric Lombardo氏も同様にWorkdayの支持を表明しています。「『スピードが勝負』という企業文化において、Workdayはビジネスを加速化する後押しをしてくれます。」とLombardo氏は言います。「Workdayは、私たちのワークフォース タレントを把握できるテクノロジーを提供して、ビジネス成功への支援をしてくれます。」Lombardo氏が特に称賛しているのはWorkdayのモバイル機能です。従来のシステムでは「レポートを思うように閲覧できませんでした。今では、社員のタレント プロファイルをすぐに参照することができます。転職を希望しているか、部門統括責任者になりたいという希望はあるか、部下を持たずに仕事をしていきたいか、そういった情報を、家でもiPadを使って確認することができます。また、たとえばシンガポールでミーティングに参加するとしましょう。現地でどんな社員と会うのか、その社員がどのようなモチベーションを抱いているのか、どのような成長機会があるかなどを 把握したい場合、iPadでWorkdayをタップすればすぐにわかります。」

レガシー システムが、最先端のテクノロジーと足並みをそろえるのは困難です。「技術が追いつくの待たなくてはならない。あるいは、ライセンスの問題が持ち上がる。このような状況では業務に支障が生じます。」とLombardo氏は言います。Workdayはコストも時間もかかるアップグレードではなく、アプリケーションスイートに定期的なアップデートを提供します。「Workdayはすぐに使えるプラットフォームです。大幅に変化するワークフォースに後れをとることなく、変化のスピードについていけます。ビジネスを成功させるために必要な最新のトレンドを把握できるのです。」Workdayのアップデートのペースは、トリップアドバイザーのビジネスとマッチしています。「昔ながらの人事部とは違い、私たちはリアルタイムで動いています。」とLombardo氏は語ります。

意思決定は迷うことなく

今後もビジネスはさらに複雑化の一途をたどっていきますが、Workdayならそれに対応し、共に成長していくことができます。「私は Workday ならこのペースを維持してくれると確信しています。」とCEOのKaufer氏は言います。「Workday は幅広い顧客を持つため、私自身にとってはまだ必要かどうか分からない機能が、追加される可能性があります。いずれにしても、次のアップデートで何が追加されるのか楽しみです。」

Kaufer氏はこう続けます。「Workdayは優れたマネジメントチームを持ち、素晴らしいWebベース プロダクトです。望む機能がすべて詰め込まれています。しかも簡単に使えます。トレーニングやマニュアルがなくても、難なく使いこなせます。Workdayヒューマン キャピタル マネジメント、Workdayファイナンシャル マネジメント、Workday給与計算の導入にあたり、悩むことなく決断したのはそのためです。」

